

平成20年度

バランスシートで見る財政状況



総務省の「新地方公会計制度実務研究会報告書」（平成19年10月）の「総務省改訂モデル」に基づき平成20年度決算による財務諸表および連結財務諸表を作成しました。

総務省改訂モデルは昭和44年から平成20年度の決算統計データを用いており、過去の実際の支出額を基礎としています。

財務諸表は、貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書および資金収支計算書の4表からなり、民間企業が採用する発生主義による複式簿記という手法を一部取り入れ、法定の決算書類では分かりにくい自治体の財政状況を総合的かつ長期的に把握するために全国の自治体で進められている公会計制度です。

普通会計は、決算統計上の概念的な会計で、一般会計にいくつかの特別会計を加えたものですが、連結財務諸表は、さらに上下水道事業、国民健康保険事業や介護保険事業、ゴミ処理や消防などの一部事務組合で処理している事業、土地開発公社などがそれぞれ作成した財務諸表を普通会計の財務諸表と合算して作成し、市全体の資産や負債、コストや収益を把握しようとするものです。

ここでは、普通会計貸借対照表と連結貸借対照表を掲載しています。

地方公共団体における貸借対照表とは、これまでの行政活動によって形成された道路、建物や土地などの資産とその資産を形成するために要した負債や財源との関係を表したものです。

借方(左側)に資産(土地や建物など)が行政サービスを提供するために必要な資産や売却可能資産などが表示されます。

貸方(右側)に負債(将来世代の負担)と純資産(今までの世代の負担)が表示されます。

筑紫野市の普通会計では、資産の総額が約1366億であり、負債は約430億円、純資産が約937億円となっています。

資産の総額と負債・純資産合計がそれぞれ約1366億円でバランスがとれているので「バランスシート」とも呼ばれています。

●普通会計財務諸表と連結財務諸表の対象となる会計や団体や一部事務組合は次のとおりです。

《普通会計財務諸表》

一般会計と住宅新築資金等貸付事業特別会計、奨学資金貸与事業特別会計および土地取得事業特別会計からなります。

《連結財務諸表》

平成20年度の連結財務諸表は、上下水道事業会計ならびに農業集落排水事業特別会計、国民健康保険事業特別会計、老人保健事業特別会計、介護保険事業特別会計および後期高齢者医療事業特別会計の特別会計ならびに筑紫野・小郡・基山清掃施設組合、筑紫野・春日・筑前筑慈苑施設組合、筑紫野大宰府消防組合および福岡県自治振興組合の一部事務組合ならびに筑紫野市土地開発公社、筑紫野市管理公社を連結しています。一部事務組合については、それぞれの団体の財務諸表の作成状況により連結が可能である団体のみを連結の対象としています。

◎「平成20年度決算」の詳しい情報は、市民図書館および市役所本庁情報公開室の平成20年度決算認定資料または市公式ホームページ(行政情報↓予算・決算・財政)で見ることができます。

●問い合わせ先 企画財政課

